

令和4年度静岡県男女共同参画センター指定管理者選定審査会 会議録

日 時	令和4年10月12日(水) 14:00~15:30
場 所	男女共同参画センター 第3会議室
出席者 職・氏名	<会長>犬塚協太(静岡県公立大学法人静岡県立大学教授) <委員>鈴木宏和((一財)静岡県経済研究所リサーチアドバイザー) 小林昭子(静岡県消費者団体連盟会長) 橋本裕子(弁護士) 高畑英治(静岡県くらし・環境部長)
議 題	静岡県男女共同参画センターの指定管理者優秀者の選定について

●内容

注意：各委員及び事務局の発言要旨を記載している。

公開に当たっては、委員名は特定しない。会長については、会長職としての発言のみ特定している。

1 会長選出

委員の互選により、犬塚協太委員(静岡県公立大学法人静岡県立大学教授)を会長に選出した。

2 事務局説明

事務局から審査の流れ、採点のポイント等を説明した。

3 プレゼンテーション及び質疑回答

<申請者プレゼンテーション>

- ・あざれあ交流会議グループ…(省略)

<申請者プレゼンテーション後の質疑応答>

(委員)

組織人員一覧を見ると、トップ2人が、正規雇用の男性、あとは女性がほとんどになっている。また、施設管理課、施設整備課については、女性は皆さん、清掃員である。このように性別、職種で分かれているような雇用は、男女共同参画と言えないと思うが、どう考えるか。

(申請者)

募集する際には、男女区別なく募集しており、男女くまなく採用したいという意向であるが、応募者の比率で、男女同率に至らないというのが現状である。

今後は、適材適所の中で男女比率にも留意しながら対応していきたい。

(委員)

男女共同参画を推進していく組織として、旧態依然の組織に見える。若い方たちが一緒にやっっていこうというふうになっていかない原因の一つにもなってくる。

(申請者)

今後、改善していきたい。

(委員)

今の問題は、男女比のこともさることながら、雇用形態が正規の方が2人だけで、あとは全て非常勤となっていることにあると思う。指定管理者の経験も長く、交流会議という組織そのものの歴史も長い中で、ずっとこの雇用形態なのか。非常勤から正規への転換を積極的に図ってきたか、そういった取組をしてきたのか。

(申請者)

長年勤めている職員を正規職員にしたいという気持ちはあるが、財政事情が厳しく、実現できていない。根本的な解決をしていかないと、打開策が見当たらない状況である。いろんな面で経費を削減しても、人件費の捻出までできていない。

職員のモチベーションを上げるためにも、工夫しながら、労務に報いていきたいと考えている。

(委員)

男女共同参画施設、あるいは女性活躍を推進する拠点施設として、経験豊富で、スキルアップされてる方を正當に評価する仕組みや人材をきちんと育成する仕組みを考えていただきたい。あざれあは、男女共同参画のモデル施設、つまり雇用形態のモデル施設を示していくという役割も担っていると思う。財政の問題が根本的にあるので、県との協力関係のもと、県にもしっかりと御理解いただいて、御協力いただきたい。

(委員)

男女共同参画団体に対する育成や支援の取組はあるか。貸館の業務及び男女共同参画に関する情報発信といったところのレベルでは非常によくやっっていて、アウトプット指標の面では、十分な取組が見られるが、地域や企業、団体の活動が盛んになったというアウトカム指標の面では課題があると思う。この点についての計画はあるか。

(申請者)

今年から来年にかけてやっっていく事業の中で、各団体に一緒に事業を推進しませんかということで、呼びかけをしていくことを計画している。

そういった中で、連携を図って事業推進を進めていきたいと考えている。

(委員)

男女共同参画団体が活動する上で抱えている課題は把握しているか。また、課題の解消に向けた施策を一つ、二つ入れてもらえると良いと思うがいかがか。

(申請者)

今後は県と相談の上、男女共同参画宣言事業所等とも繋がっていききたい。

また、交流会議の理事を通じて、新しい団体の交流も考えていききたい。

直近で、あざれあメッセ等の機会を捉えて、意見を聞きながら、来年度の計画に生かしていききたい。

(委員)

利用料金収入の見込みが、来年度は前年比で46.8%増を見込んでいる。これは、根拠を持って想定した数字か。

(申請者)

今年度は、おおむね3,000万円の利用料金収入を見込んでいる。今年の大きな落込みの要因は、外壁修繕工事である。それを除けば、コロナ禍でも順調に会議室の利用を伸ばしてきたと考えている。令和元年の利用料金収入が4,100万円余りの実績であり、4,050万円くらいのところまでは、目標としてやっていきたい。

併せて、いろいろな業種に営業し、会議室利用促進を図り、収入を確保していきたい。

4 疑問点確認・採点

<疑問点確認>

(全委員)

疑問点なし

<各委員が採点>

5 指定管理者候補者の決定

<集計結果の配布・委員意見発言>

(会長)

この結果を踏まえて、各委員から意見をお願いしたい。

(委員)

男女共同参画は自らも実践していかなければ、人はついてこないと思う。今の若い人にとって、職場における男女共同参画は、非常に大事なテーマであるので、その点について、任される以上は、意識して、しっかり勉強してもらいたいと思う。

それ以外は、今までずっと一生懸命やっており、問題ないと思う。

(委員)

採点表で言うと、「センターの効用を最大限に発揮できる事業計画であること」が全体に比べて低い。一生懸命やっていたが、男女共同参画という目的のところに直接繋がっているか疑問がある。今後の計画として、様々な業種への営業を実施することについて話があったが、それはいわゆる次善の策である。本来的な男女共同参画の目的利用が増える活動がやれるかというところを検討、実施していただく計画になっていないと、ここは点数が上がらない。

男女共同参画の目的利用を増やすためのいろいろな施策を実施することで、このあざれあの存在意義を果たしていただきたい。30年経った館の運営状況としては少し物足りないと思う。

(委員)

普段利用している立場で、職員の接遇が非常に行き届いており、大変感謝している。コロナ禍になり、Wi-Fiも使えるようになった。コロナ禍で自主事業の実施がかなり狭められたのではないかと感じているが、それは、やむを得ない事情であると理解している。

一生懸命やっており、大学生への働きかけや、オンラインを使った試みなどいろいろな時代に即した努力をしているということで、高く評価した。

(委員)

繰り返し使っていただける利用者を大事にしつつ、新しく利用していただける方を確保していくということが必要。新しい団体との交流について明言があったので、期待したいと思う。

組織等、人員の話は県に対しても言われていると認識したところであり、そこは、交流会議と話を進めていきたい。

(委員)

全体を通して、あざれあという施設の維持管理・運営事業の内容と、交流会議という運営母体の組織のあり方をどうするかという、二つの問題が見えてきたと思う。

あざれあは、本来は男女共同参画、ジェンダー平等という目的が明確にあり、そこを推進するための非常に重要な拠点施設という位置づけがある。本来的な業務としては、その目的のための事業のあり方を常に目指していくことが本筋である。

この種の拠点施設の運営に関して、指定管理者という業務の中で、利用率の向上や利用者数の増加という、施設運営の効率や効果の追求を課されてしまうが故に、本来業務になかなか集中できないという悩みが、全国の女性会館、男女共同参画センター

に共通してある。

逆に言うと、目的利用が増えないと、男女共同参画のための施設の意義がなくなる。

長期的な課題であるが、本来業務に専念できるように、あざれあの業務の振り分け方等を県と協議し、人材を育成していくことが大事である。

現在の状況は、パート労働で支えられている組織である。長年キャリアを積んで、スキルは高いにも関わらず、それが正当に評価されない、管理業務まで行けないというジレンマが出てきている。

全国的に見ても、しっかりしたスタッフが、男女共同参画やジェンダー平等に意欲と見識を持って、取り組み続けて、キャリアも大変積まれている。

本来の業務に携わる人材が伸び、経験の機会が増えて、スキルが上がり、実効性が高い企画やプランが出て、次々と実施されていくという、いい循環が回っていくということが望ましい。

そういう人たちがいっぱいいるのに、今の雇用や業務のあり方はもったいない。

その二つの問題を結びつけ、一層県との連携を深めて、よりよく組織が動いて、このセンターがいい循環に回っていくようにしていただきたい。

(会長)

採点表集計の結果、最終的には、平均点合計 86.4 点、期間評価結果による加点 5 点を加え、91.4 点という点数となった。

審査会として、「あざれあ交流会議グループ」を次期指定管理者優秀者として選定したいと思うが、よろしいか。

(全委員)

異議なし。

<今後の日程について確認>

<閉会>